

令和 7 年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

(一般財団法人恵和会寄附金)

使用者 (代表者)	氏 名	所 属	職 名																									
	柏田 香代	皮膚科	講師																									
グループ全員 (記入欄が不足する場合、 別紙に記入)	市川 麻紀	看護部	病棟副師長																									
	元島 弘隆	看護部	看護師																									
	徳永 美紀	看護部	看護師長																									
	福島 聡	皮膚科	診療科長																									
活動テーマ	こどものアトピー性皮膚炎の教育入院プログラムの設計 ～保護者の視点で見直すセルフケア支援～																											
助成金額	500,000 円	助成金使用総額	500,000 円																									
【使用内訳】 <table><tr><td>消耗品</td><td>359,576 円</td><td>(内訳)</td><td>医療用備品・衛生用品</td><td>226,780 円</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>文房具・AV機器</td><td>101,958 円</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>書籍</td><td>30,838 円</td></tr><tr><td>旅費</td><td>131,080 円</td><td>(内訳)</td><td>小児アレルギー学会</td><td>65,540 円×2名</td></tr><tr><td>その他</td><td>9,344 円</td><td>(内訳)</td><td>パンフレット印刷代</td><td>9,344 円</td></tr></table>				消耗品	359,576 円	(内訳)	医療用備品・衛生用品	226,780 円				文房具・AV機器	101,958 円				書籍	30,838 円	旅費	131,080 円	(内訳)	小児アレルギー学会	65,540 円×2名	その他	9,344 円	(内訳)	パンフレット印刷代	9,344 円
消耗品	359,576 円	(内訳)	医療用備品・衛生用品	226,780 円																								
			文房具・AV機器	101,958 円																								
			書籍	30,838 円																								
旅費	131,080 円	(内訳)	小児アレルギー学会	65,540 円×2名																								
その他	9,344 円	(内訳)	パンフレット印刷代	9,344 円																								
成 果																												
アトピー性皮膚炎は小児の約10%にみられる慢性疾患であり、皮膚症状のみならず睡眠障害や情緒面への影響も大きい。治療の基本は外用療法であるが、家庭でのセルフケアの継続は容易ではない。本活動では、当院の理念である「患者本位の医療の実践と地域福祉への貢献」に基づき、家庭での実行可能性を重視した多職種連携による教育入院プログラムを設計した。本年度はプログラムの基盤構築と初期実践に注力し、以下の成果を得た。 1. クリニカルパスおよび視覚資材（パンフレット）の作成 短期入院（1泊2日～）形式のクリニカルパスを年齢別に2種類作成した。多職種（医師、看護師、薬剤師）が共通言語で指導できるよう、発達段階に応じた指導項目を整理した。また、保護者が家庭に持ち帰った後も見返せるように、治療の目標や洗浄・保湿・外用薬の塗布量を視覚的に理解できるオリジナルパンフレット（資料1）を作成し、外来・病棟での一貫した指導体制を整えた。																												

2. 患者・保護者への実践的アプローチ

本プログラムの核心は、外来診療の時間的制約下では成し得ない、徹底した個別最適化の作業にある。入院期間というまとまった時間を活用し、患児一人ひとりの皮膚状態や生活リズム、発達段階に合わせた指導を具体的に実施した（資料2）。特に「どこまでを児の自律に任せ、どの頻度で大人が介入すべきか」という境界線の引き方については、スタッフ自身の子育て経験を交えながら具体的なアドバイスをを行い、保護者の心理的負担の軽減を図った。

3. 新人教育への活用と汎用性

患者指導の現場には新人スタッフも積極的に同席させ、指導後にフィードバックを行う体制をとり、教育的側面を強化した。標準化されたパスやパンフレットを活用することで、経験の浅いスタッフでも要点を押さえた指導が可能となり、指導の質の底上げに寄与した。また、このノウハウは小児に限らず、コントロール不良の成人患者へのケアにも広く応用可能であった。

4. 直接入院の受け入れと情報収集の標準化

患者・保護者の通院負担を軽減するため、当院かかりつけ患者に限らず、県内外の遠方地域からも直接入院を受け入れる体制を構築した。実際に受け入れを行う中で、アレルギー情報の詳細把握、ベッドの種類、付き添いなど、事前に共有すべき情報の重要性が浮き彫りとなった。この経験を活かし、直接入院に必要な情報を記載した事前チェックシートを作成した。次年度より本格運用を開始し、さらなる円滑化を図る予定である。

この度は、多大なるご助成を賜り、心より感謝申し上げます。本助成により、小児アトピー性皮膚炎の教育入院に必要な資材や備品等、体制の整備を行うことが出来ました。今後は、このプログラムで培った指導ノウハウを、お子様だけでなくセルフケアに困難を抱える成人の患者様へも広げていく予定です。すべての患者様が前向きに治療を続けられるよう、さらなる質の向上に努めてまいります。

【別紙】

グループメンバーの氏名・所属・職名

氏 名	所 属	職 名
吉田 有紀	看護部	看護師
栗原 ゆりこ	看護部	看護師
山田 未希	看護部	看護師
早木 智美	看護部	看護師
植木 由貴	看護部	看護師
山村 愛	皮膚科	医員
永崎 太清	薬剤部	薬剤師
堤 智子	栄養管理部	管理栄養士
緒方 美佳	小児科	特任助教



ちりょう 治療のコツを身につける

アトピー性皮膚炎
きょういくにゅういん
教育入院プログラム

くもとだいがくびょういん
熊本大学病院



ないよう
内容

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 01 アトピー性皮膚炎とは？ | 05 むりやくについて |
| 02 治療の三本柱 | 06 洗い方について |
| 03 治療のゴール | 07 治療のコツを身につけるために |
| 04 入院中おぼえてほしいこと | |

01

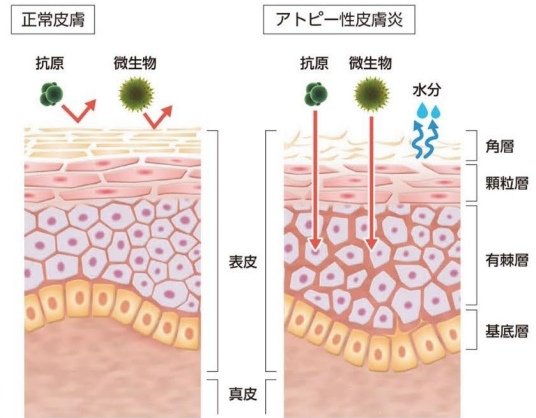
アトピー性皮膚炎とは？

✓ 皮膚のバリア機能が弱い
乾燥しやすい・アレルギーが入りやすい

✓ アレルギーによる炎症
バリア機能をさらに弱めたり、かゆみが長引きやすい

✓ かゆい
眠れない、日常生活に支障がある

などの特徴があります



02

治療の三本柱

1



おくすり
ぬり薬・飲み薬・注射

2



スキンケア
洗浄と保湿

3



悪くなる原因を
除く・対処する

03

ちりょう 治療のゴール



1
まずは
お薬くすりを使って
つつるすべすべに



2
お薬くすりを
減へらしたり変かえたりして
つつるすべすべを
キープ



入院中にゅういんちゅうにできるようになりたいことは？



あなたが思う治療おも ちりょうのゴールは？
こうなったらいいなと思うことを教えてください

05

じっさい 実際にぬってみましょう

かかった時間じかんは？

ぬり忘わすれた場所ばしょは？



ひとりでできた？
お手伝てつだいは必要ひつよう？

1回かいで使う量つかりょうは？
何本なんぽん？何グラムなん？

06

せっあわだかた 石けんの泡立て方



液体石けんをワンプッシュ



泡立てネットをぬらして



泡立てをしましょう

あわで出てくるタイプの石けんは便利ですが、
使いすぎに注意しましょう

熊大公式YouTube
泡立てが重要



石けんの種類



07

ちりょう 治療のコツを身につけるために

1



ぬる時間を
決めましょう

2



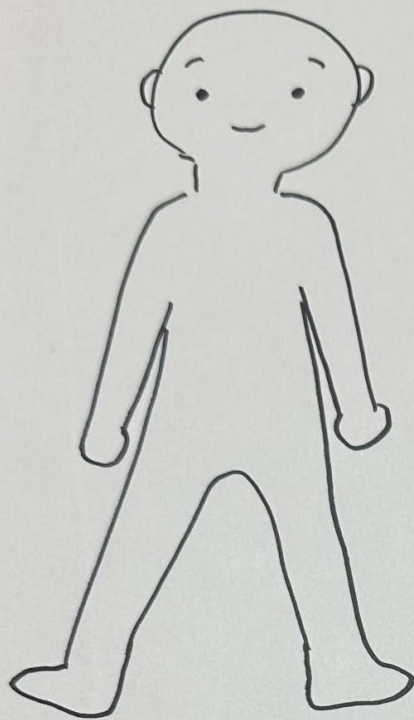
続けられる方法
時間でぬりましょう

3



やってみてどうだったか
次の受診でお話ししましょう





1本のステロイドの薬は
顔につかないように

うしろ首、おしりは
塗り忘れしやすいので中止
ぬ ぬす

手はよく保湿しましょう
ほしつ

① コルクチン+ヒダイト
顔、耳、首、うで、あし、右肩
(以前かゆかった、もりあがって
いたところ)

② 保湿剤(ヒダイト)
おなか、胸、背中、おしり、手

③ アンテベート+ヒダイト
手の甲、左膝下、足首
ひざ

(首から下で
~~かゆい~~ 今、かゆい所、
今ザラザラ、ポコポコしている所)

④ あえんか
亜鉛華 はんこう

左膝下の外側
ひざ

(特にもりあがっている所)

ガーゼにのびして、包帯で
とめる (もうたい)